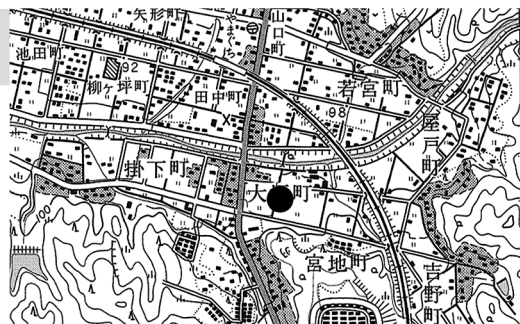


おおつばにし
大坪西遺跡

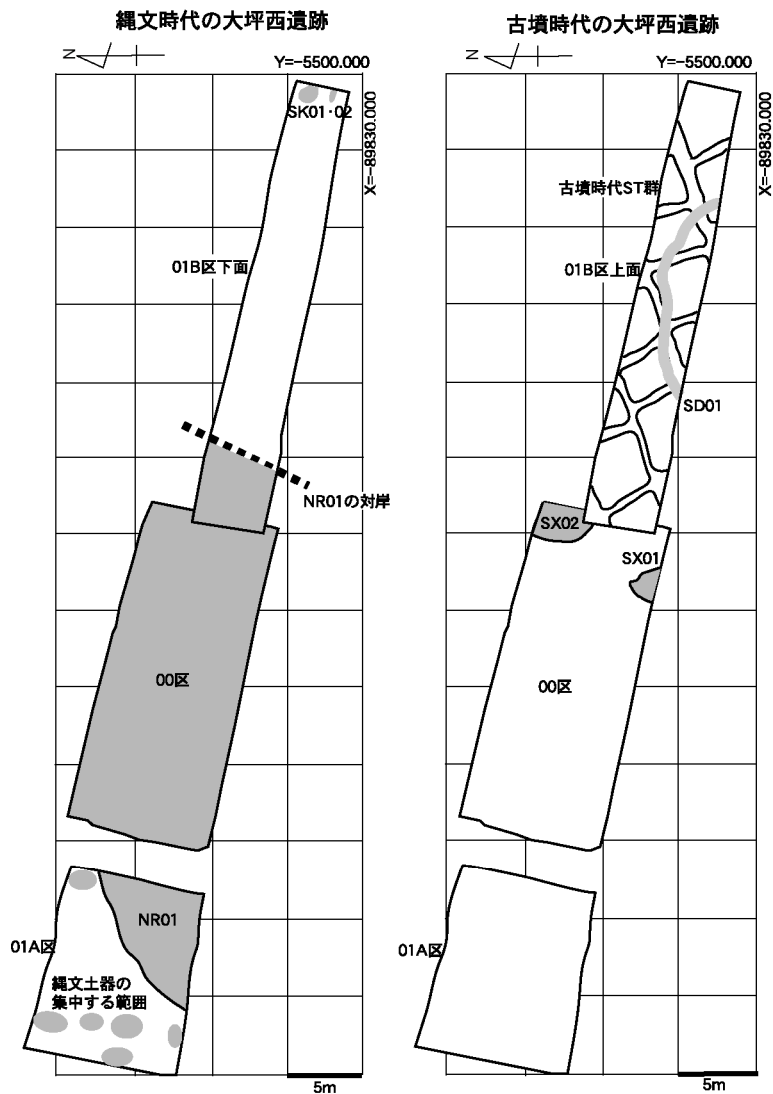
所在地 瀬戸市大坪町地内
調査理由 瀬戸環状線建設
調査期間 平成 13 年 10 月～ 11 月
調査面積 510 m²
担当者 服部信博・宇佐見 守・織部匡久



調査地点 (1/2.5 万「瀬戸」)

- 調査の経過** 調査は瀬戸環状線建設に先立ち、愛知県建設部道路建設課から愛知県教育委員会を通じて委託を受け、昨年度から実施している。昨年度の調査では、7 世紀代の須恵器坏身片や土師器甕片が出土した土坑状の落ち込みなどを検出した。
- 立地と環境** 遺跡は山口川（矢田川）により形成された沖積地である山口谷の南東部、山口川にそそぐ吉田川（東側）と薬師川（西側）に挟まれた丘陵裾に立地し、標高は約 92 m を測る。
- 調査の概要** 調査区は遺跡推定範囲の南西部にあたり、調査前は水田であった。昨年度の調査区の西側を A 区、東側を B 区として実施した。
- 縄文時代後期** A 区南東部で自然流路 1 条と、西部から北東部にかけて土器集積遺構 4 基を、B 区東部で土坑 2 基を検出した。この時期の遺物の大部分は A 区で出土した。土器は無文土器の割合が高く、有文土器の出土は少量である。器種は深鉢の他に注口土器が出土している。石器は石鏃・石棒が出土した。石鏃・剥片の石材は下呂石が多い。約 75 m 南に所在する大坪遺跡で縄文時代後期の住居跡が 1 軒検出されており、これとの関係が注目される。
- 古墳時代** B 区で水田跡 12 枚と溝 1 条を検出した。水田の残存状況は悪く、畦畔跡を検出するにとどまった。畦畔は北東から南西にかけて並行する大畦畔 3 本と、それにほぼ直交する小畦畔からなる。調査区が東西に細長く、完掘した水田はないが、およそ 3.5 m 四方を測る。溝の残存状況も悪く、調査区南側で円弧を描くように走り、検出長約 12 m・幅約 25 cm・深さ約 1 cm を測る。溝は切り合いから水田より新しい。遺物は調査区西側で広口壺片が出土した。
- 中 世** A・B 区ともに明確な遺構は検出しなかったが、現水田の床土から山茶碗・古瀬戸製品が出土した。
- ま と め** 大坪西遺跡では従来知られていなかった縄文時代後期の遺物が A 区でまとまって出土したことにより、遺跡の範囲がさらに西側に広がることを確認した。さらに、同時期の遺跡である大坪遺跡が近接しており、それとの関係も考慮する必要がある。

（宇佐見 守・織部匡久）



第1図 大坪西遺跡主要遺構略測図 (1:500)



01A区全景（西から）



01B区水田検出状況（東から）